
第8回 福祉のまちづくりモデル地区推進部会 議事録

平成22年3月17日(水) 14:30 ~ 16:40 中央区役所 3階 302会議室

出席者 : 三浦(部会長)、石井、大森(代理:高橋)、河合、國島、佐々木、田口、長根、平野、宮部、吉野(木崎小学校)

連携校 : 伊澤(桜木小学校)

関係団体職員 : 船戸(さいたま市社会福祉事業団) 高野、山内(さいたま市社会福祉協議会)

市関係課 : 古市(交通企画課)

事務局 : 大塔、谷澤、阿久津、榎本(福祉総務課)

敬称略

【次第】 1 開会

2 議事等

- 1) 21年度モデル地区推進事業の総括
- 2) 22年度モデル地区推進事業の見通し
- 3) 過去4年間の取り組みと「さいたま市福祉のまちづくり推進指針」の一部見直し

3 その他

4 閉会

【内容】

1 開会

大塔福祉部次長(兼)福祉総務課長あいさつ(省略)

2 議事等

1) 21年度モデル地区推進事業の総括

事務局 資料確認

資料1 - 1、資料1 - 2の説明(省略)

三浦 ご苦労さまでした。続いて、桜木小学校の伊澤先生からお話をいただきたいと思います。私からのリクエストですが、保護者の方や発表をご覧になった方の感想などは文字で起こしていただいているので、ぜひ先生ご自身のご感想とか気がついたことがあれば、お聞かせいただきたいのですが。

伊澤 皆様にとくさんのご協力をいただきまして、子どもたちだけでなく、私たち教員の方も貴重な経験をさせていただきました。皆様に学校まで来ていただきまして、子どもたちと一緒に考える場を与えていただきました。ほかの教職員にも参加したかったという者もありました。ぜひ、今後とも継続していただければと思っています。本当にお世話になりました。いくつか、気づいた点を話したいと思います。

まず、今回は子どもたちだけでなく、「保護者も参加を」というお話をいただいて、そうしたのですが、それがよかったのではないかと思います。保護者のほうからも「子どもと一緒に考える時間になりました。」とか、「まちを歩いていて、買い物するときなども、車いすなど、今まで見なかったものを見るようになりました。」などの話がありました。子どもも保護者も、普段の生活の中での意識や目線がそういったところにも向くようになったのかなと感じております。それが一番の成果ではないかと思えます。それから、子どもたち自身も学校の中で色々な方に接することができました。たださえ、家族におじいちゃん、おばあちゃんがいる世帯が少ないということもありまして、色々な方と接する機会が普段から少ないです。そういった中で、今回、間近で、もしくは一緒になって、話していただいたりした中で、普段接することができない方々と同じ時間を過ごすことができたということが、普段なかなかできない経験であり、人との係わり合い、思いやりの心を持つという意味でも得るも

のがあったと思います。また、子どもたちの生活ぶりを見ましても、少しずつですが、「自分たちにも何かできるのではないか。」というものが学習を通して出てきました。表面的な部分で、「先生、道路を直したほうがいいよ。」とか、「エレベーターをつければいいんじゃない。」という話で終わるのが怖かったのです。もちろんそれも大事ですけども。子どもたちと考えると、発表でどれくらい子どもたちの深まりがあったか、どのくらい皆様にお伝えできたかわからないのですが、子どもたちなりに、学校なりに、あのようなかたちで発表させていただいて、発信することができたのかと思います。非常に難しかったのは、あのような発表でよかったのかという部分と、学校側が願うことばかりで、事前の準備や打合せなど無理をいってやっていただいたことがあったということです。それから、子どもたちの発表がどのような形でまちづくりに活かされていくのか、すぐには難しいとは思いますが、見える形で子どもたちに返していただけるような場があったり、子どもたちからも、これで終わるのではなくて、しばらくたった後で発信して考えを送るような場があればと思います。本校も今年度はこのような、丁寧で貴重なたくさんの活動をさせていただきました。来年度は、今年度のようにはいきませんが、福祉については5年生のほうで継続して総合的学習の時間でやっていく予定があります。ただ今年度のようにここまで充実したものは難しいというはあるのですが、今回取り組ませていただいていたいくつかの部分は実施できたらと考えています。体験活動であったり、お話をしていたり、子どもたちと考えていただいたりということです。学校側も、生の声であったり、色々な方々と子どもたちが直接関わりを持つという場を作っていけたらと思っています。ぜひ、ご協力をいただければと思います。それから非常に難しかったのは、打合せの部分でした。主に教頭が事務局と打合せをして、電話やFAXでやっていたのですが、わたしたち担任が直接、事務局や部会委員の皆様と打合せができずに、急遽変更になってしまったりとか、時間がずれてしまってご迷惑をおかけしたりという部分があったと思います。もう少し、学校側もうまく打合せをして、よりよい運営ができればと思いました。最後に私自身の感想ですが、なかなか学校では今年度のような活動を体験することは難しいと思います。色々な準備をしていただいたり、昨年度の反省を活かしていただいて、学校側が事前の準備で動かなくても事務局から他の部署の方に連絡を取っていただいたり、運営面に関しては学校側はやりやすくいただきました。学校側としては、当日、どのような形でやるかとか、子どもたちをこんな風に動かしますということで、話を事務局に振るということで今回実施できたことは、こちらの負担としては軽かったと思います。昨年度までの経験を改善するというでやっていただいた部分で、学校側としてはありがたかったです。それから私自身の感想としては、子どもたちがこういった活動をさせていただくにあたって、どんな活動になるのだろうと不安だったのですが、参加して下さった方が、一人一人の子どもたちに、「大変なのだよ。」とか「こういうのがあると便利なのだよ。」ではなくて、「そういう部分もあるけれども私たちは毎日皆と同じように生活しているのですよ。」という声をかけて下さったのです。発表としてはどうしても障害者の方への配慮の発表が多かったのですが、子どもたちとしては、「みんなと生活しているのだ。その中で、自分たちにできることは何なのだろう。」と考える時間として、できたということです。私は最初、正直なところハード面の「便利なものがあれば」という発想で終わってしまうと思ったのですが、参加して下さった方々が子どもたちの目線を上手に、「そういったことだけを見てほしいのではないのだよ。」と伝えて下さったのが印象に残っています。私たち教員がそういうことをいってもなかなか説得力がない部分、それから子どもたちも知っている部分として終わってしまうことが多かったと思うのですが、生の声を聞かせていただいたことで、子どもたちと一緒に私たちも、「そうだね。そこからまずはじめなくちゃね。」というように授業を展開することができました。担任としても、失礼

かもしれませんが、やりやすく、子どもたちと、「じゃあどうしようか、どんなことを考えていこうか。」というように、参加させていただいて考えることができたと思います。課題としましては、ここで終わってしまえば意味がありません。校内では他学年にアピールをしたり、発信することはしたのですが、さらに今後もやり、来年度以降の引渡しも、今回学んだ子どもたちからしていければと考えています。まとまりませんが、たくさんのご協力をいただきまして、貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

三浦 以上、議事にかかわる資料、それから先生のご説明をいただきました。私も少し補足させていただきたいのですが、前年度、大宮小学校でのモデル地区の取り組みの段階から、阿部教頭先生には部会の方にご同席いただいて、桜木小学校でどのように取り組めるかというのを早い段階から考えていただいたのだと思います。資料1-1では、今年度の最初は8月21日のモデル地区部会と記されていますけれども、事務局と私(部会長)も含めてですが、夏休みの前の段階で学校に伺って、直接、校長先生、教頭先生とお会いして、総合学習の中にカリキュラムとして取り入れていただくことについてご相談をさせていただきました。その段階で桜木小学校は従来から英語教育で総合学習に力を入れているということで、福祉に対しては新しいチャレンジだったと思うのですが、事務局も一生懸命動いて地域の自治会などに働きかけをしてくれましたし、今回で4校目になるのですが、ようやくモデル地区らしい事業になったかなと思っています。伊澤先生が、継続が課題といわれましたが、モデル地区事業というのは如何せん場所を変えながら市内にこういった活動を広げていくという使命を持っていますので、その意味では今後、学校側に委ねるところが多くなってしまいますが、関係諸団体のみなさんですとか、社会福祉協議会の方々、社会福祉事業団の方々も、桜木小学校からの依頼があれば、積極的に応援、協力をしていただければと思います。私も個人的にでもお声かけいただければご協力したいと思います。皆様、本当にありがとうございました。

では、これに関連しまして、ご意見、ご感想、ご質問等があればご発言いただければと思います。河合委員どうぞ。

河合 私は聴覚障害者の立場でいいますと、近隣との付き合いが一番難しいのです。近くの人に会っても、頭を下げるだけなのです。今回、小学校の児童と、大人も子どもも交えて、こういう機会を作っていただいて、よかったと思います。そういう意味で、障害者の側からも高い評価ができると思います。ただ、できれば学校の枠だけでなく、問題を家庭にも持ち帰ってほしいと思いました。そのためにも、お子さんの親たちがもっと大勢、参加していただくことが必要ではないかと思いました。学校だけでなく家庭まで持ち込んで障害者問題を話し合っていたいただきたいということです。もう一つお願いしたいのは検証ということです。われわれが問題点を発見する。その発見した問題点をどうするかという過程が十分伝わっていないと思います。大宮小学校のときには、子供さんたちが意見を交換している中で解決策まで話し合っていました。検証ということに取り組んでいただけないかと思いました。

三浦 はい、ありがとうございました。子どもだけではなく、大人も学び家庭も学ぶという点では、今年度は区民会議の方が、非公式ではありますが参加してくださったということが、ちょっとした進歩であったと思います。それがまた区民会議の場で論議されているということも聞いておりますので、子どもの学びが大人の会議の場に継承されるということがありますと、さらに発展していくのではないかと思います。それから、二点目の検証作業は、常に課題として残っていますが、事務局からの報告にもありましたように、行政で対処すべき諸課題は、所管課にそれぞれつないでいただいている

ということも伺っていますので、結果報告などは、協議会の場でも逐次お願いしたいなと思います。次の方、どうぞ。

佐々木 私は部会委員の一人として、あまり参加するチャンスがないので、こと細かな意見といってもなかなか出てこないのですが、資料の1 - 2のところに、字を間違えてらっしゃるかわかりませんが、参加者からの声の79番に「電車や駅などでキーホルダーや……」と書いてありますが、キーホルダーと次に来る言葉がどうつながるのか、ということです。それから、学校の先生が非常にご苦労なさって発表会を行っていただいたのですが、先生一人が大変だったなという印象があったのですが、他の先生方のああいう発表会のときの協力はどのようにされているのかと思いました。子どもが5年生ですから、ああしろ、こうしろといわなくてもできる存在だと思しますので、いかがでしょうか。

伊澤 発表会の日、学校公開日といいまして、全校が授業参観の状態です。5年生のところに補充できる教員がない状態でした。ただ、それ以外の日は手伝っていただきました。

三浦 79番のキーホルダーは、マタニティー(妊産婦)マークのキーホルダーのことをいっています。宮部委員どうぞ。

宮部 育成会の宮部といいます。これまで、知的障害を理解するプログラムを入れてくださいとお願いしてきて、桜木小学校でそれが実現いたしました。皆様に感謝申し上げたいと思います。内容としては、子どもたちに、うまく伝えられたかなという反省がありました。私が一番伝えなかったことは、ハード面もちろん大事なのですが、一番大切なことはソフト面、心の中のことではないかということです。そこで、アンケートにもありましたように、いろんな話ができて一緒に理解できるということで、まず、最初の第一歩を踏み出せたのかなと感じております。精神論ではないのですが、気持ちがないとハードにも目が向かないと思いますし、その点ではちょっと第一歩を踏み出せたのかなと思いました。また、アンケートにもありましたように、長く続けていかないとつながっていかないという面もあるかと思しますので、地道に続けていく、振り返りをしていくということが大事なかなと思いました。

三浦 他にご意見、ご感想があれば、どうぞ。長根委員はどうですか。

長根 特に感想ということではないのですが、桜木小学校の方々から、うちの会の当日参加した人たちに、子どもさん方から、お礼のお手紙を頂戴いたしました。参加した人たちに全部配りました。ありがとうございました。

三浦 田口委員、いかがですか。

田口 小学生に車いすを押していただいたのですが、「こういうのはたいへんだ。」とか、「このところ危ないね。」とか、色々話しているのを聞いて、ずっと何年も続けていくと、こういう人たちが大人になっても、私たちのことをよくわかってくれるかなと思いました。エレベーターでも、出るときに、私が降りるまでずっと押してくれる子がいました。小さいときから、こういうことをわかってくれることはありがたいことだと思いました。昔は、学校の先生方が障害者をまきこんでこういうことをすることはなかったものですから、時代が変わってよくなったなと感じています。

事務局 事務局から、一つ補足があります。長根委員さんから報告がありましたように、発表会終了後に5年生の皆さんから、参加していただいた各団体の皆様に、ご丁寧に手作りのお礼状をいただきました。それを、各団体の皆様にお送りしました。そして、部会の委員の皆様にも、福祉のまちづくり推進協議会宛のお礼状をいただいておりますことを皆様にご報告しておきます。ありがとうございました。

三浦 國島委員どうぞ。

國島 委員の國島です。私は、モデル地区の取り組みは3校目になります。今回の桜木小学校の取り組みに、全部ではありませんが参加して、参加者や協力者の参画状況ですとか、保護者のご参加とか、色々な方々の総合的な取り組みという意味では、今までの中で一番だったかという感想を持ちました。その裏では、先生方のご苦勞が多かったかなと拝察しております。以上です。

三浦 ありがとうございます。せっかくですから、石井委員もどうぞ。

石井 私は9月30日でしたか、授業に参加させていただいて、そのときに私自身も、色々な方の困りごとを学びました。特に宮部委員さんがやってくださった「ピカチュウ」が一生忘れられない出来事でした。先生だけ席をはずされて、生徒さんに宮部委員が色々とお話したのです。そして先生が戻られて、宮部委員と先生が色々な会話をするのですけれども、その席にいなかった先生にはわからない。わからないということがこんなに大変なことなのだということが、一緒に体験できたのです。自分で知っているようなつもりでいたことも、一人一人のお話を伺って、この年になってもはじめての経験でした。また、私自身も、まちの中で色々な方に出会って、子どもさんと一緒に変わっていった。自分自身のまちを歩いていて、ここがとか、あそこがとか、こういうことって本当は市の何課が担当してるよねとか、気にかけるようになりました。子どもさんと一緒に勉強させていただきました。ありがとうございました。

三浦 平野委員、ご感想いかがでしょう。

平野 学校の子どもたちがよく観察して、はっきりとした発表をなさっていたことに感心いたしました。私たちは年代が年代ですからちょっとかけ離れて考えておりましたけど、現在の子どもの社会を見る目というのが、非常にすばらしいと思いました。

三浦 ありがとうございます。では、次の議事に移らせていただきます。事務局からお願いいたします。

2) 22年度モデル地区推進事業の見通し

事務局 資料2 - 1の説明(省略)

三浦 ありがとうございます。では、吉野教頭先生、補足説明をお願いいたします。

吉野 私は、今年で赴任2年目ですから、それほど詳しくありませんが、木崎小学校は今年で135周年を迎えまして、伝統ある学校です。児童数の増加に伴いまして、針ヶ谷小学校、上木崎小学校、大東小学校、道祖土小学校と、全部で5つの小学校を分離してきております。歴史を紐解きますと、大宮の北袋から南は川口の赤山の方まで、学区があったように聞いております。岩槻街道と交差しているところが、江戸時代に赤山街道といわれたところで、かなり昔から往来があった地区でございます。現在は上木崎小学校の学区になっていますが、サツマイモの新種である紅芋というものを発見した「山田いち」という方などを輩出している歴史のある地区です。本校の場合には、学校教育目標が「心ゆたかたくましい子の育成」ということで取り組んでいるところでございますが、福祉に関しては小学校5年生が総合的な学習の時間を使って学習を進めているところでございます。つい先日、2月中旬に学校公開がございまして、5年生が全体でアイマスク体験の授業を公開し、校内をアイマスクを着けて白杖を持って、子どもが友達を誘導しながら歩くというようなことを実際の授業でして、多くの方にも知っていただいたところです。桜木小学校さんと同じように新都心の方に行きまして新しい施設の構造を見ながら、住みやすいまちづくり、自分たちが住みよくなるために

はどういったことが必要なのかといったことの学習を現在進めているところです。ただ、桜木小学校さんと大きく異なるのが、地図上ではわかりにくいのですが、歩行する意味で不便というか危険なところがたくさんありまして、産業道路のところに、ガードレールが付いているのですが、幅にして90センチもないというところ、人がすれ違うのも厳しいというところがございます。また、通学路になっているところですが、木崎小学校を見ていただきますと右斜め上のところに信号機のマークがございます、銚子丸と書いてあるところがあります。その近くに星野マンションというところがあるのですが、このところの交差点の星野マンションからライオンズマンションに抜けるところの道が大変狭くなっていて、子どもたちの通学も危険を伴うところがあります。そういう意味では、子どもたちがどう危険を回避して歩かなければならないかということも感じているところでございます。校舎自体も昭和52年ですので、たいへん古く、使い勝手が難しいところではございます。そんな中で、木崎小学校でできるということであれば、今まで積み重ねてまいりました福祉の学習を通して、さらに先ほどお話いただきました、地域の方を踏まえてということ、入れながらのご協力ということになるかと思えます。長年、福祉の学習については、総合的な学習で取り組んではいるものの、真新しいことにつきましては難しい点もありますので、桜木小学校さんのような立派な発表はできないかもしれませんが、皆様からご協力をいただけるということですので、少しでも子どもたちが、自分たち皆が気持ちよく暮らせることを考えながら学習を深めていくことができればと思っております。よろしく願いいたします。

事務局 また、補足でございます。なぜ、木崎小学校さんを、来年度に選定させていただいたかということです。何度か部会長さんとも打ち合わせをしてきたのですが、今までは、さいたま市交通バリアフリー基本構想の重点整備地区の4校と連携して駅近で取り組んできました。駅近は、再開発などで比較的整備が進んできたところでしたが、一定の実績を残してきましたので、ここで、駅から少し離れてみて、住宅街などに環境を変えて取り組んでみたらどうか、という意図でございます。そういうことで、木崎小学校さんをお願いをしたわけです。部会長から、補足説明をお願いできればと思えます。

三浦 はい、この件は、今日の議事にはなっていますが、年度が変わってからの動きになるかと思えますので、年度が変わりましたら、また学校の方々と事務局、部会の主だったメンバーと協力団体などで、進めながらやっていきたいと思っています。どうしても、正式な形での部会や協議会は、回数を重ねられないことがありまして、佐々木委員のご指摘にもありましたが、部会の委員として参加していても前段階の準備がよくわからないということがあろうかと思えます。申し訳ないとは思いますが、少しずつでも改善してやっていきたいと思っています。そういう意味では、来年度、木崎小学校をモデル地区の対象校としてやるというのは、また新たな展開かなと思えます。学校区内に駅を含まない、純粋な住宅地で、結構起伏もありますし、道路も狭くて歩道環境もなかなか整備されていない。こういった条件下で、この地区は住民の高齢化も進んでおりますし、学区内に数階建ての中高層建築物もあります。私の活動の範囲内で知る限りでは、介護保険事業を担うNPO団体とか、地域の支えあいに尽力しているNPO団体とか、地区の社会福祉協議会ですとか、公民館の活動も大変熱心なところと認識しています。そういうところと多面的に関わり合いながら、また新しいモデル地区活動を模索していければと思えます。そういう目線では、学校の積み重ねてきた福祉教育に、また新しい視点、風が吹きこめるのではないかと思いますので、積極的に取り組んで新しいモデルの一つにしたいと思っています。私からの補足はこの程度ですが、次の議事に移ってよろしいでしょうか。年度が変わりましたら、協議会や部会の開催まで時期があいてしまうので、

非公式な動きになると思いますが、事務局と私と、社会福祉事業団、社会福祉協議会などと連携して動きますけれど、委員の皆様には情報をお流しして、協議に参加していただくかたちを取りたいと思います。引き続きご協力をお願いいたします。それでは、議事の3に行きます。

3) 過去4年間の取り組みと「さいたま市福祉のまちづくり推進指針」の一部見直し

事務局 資料3 - 1、資料3 - 2、資料3 - 3の説明(省略)

三浦 ありがとうございます。事前に送られた資料とはいえ資料3 - 1を読み込んでいらっしゃる方がどれくらいおられるかということもあるのですが、次の推進協議会までにモデル地区部会としての見直し案を出すということで理解すればよろしいわけですね。そのための協議の場は現実的には今日だけということで。それではこの場で意見をいただくほか、直接事務局に意見をいただくといいやり方でよろしいわけですか。

事務局 部会に直接関わる内容ですので、そのようにしたいと考えます。時間的に、場所をあらためての協議はできないと思います。また、見直し案といっても、大きな改定は行わないという趣旨のものですから。ただ、内容のご理解やご意見をいただいてから、推進協議会にお諮りしたいと思っています。

三浦 あらためて、この内容について文章をチェックするような協議の場は部会としてはもてないということですので、この場でご意見をいただくのと、持ち帰っていただいて、気づいた点などがあれば事務局にご連絡をお願いしますということで処理したいと思います。いかがでしょうか。資料3 - 1を重点に見ればよいということです。結論から言うと、モデル地区部会のモデル地区としての取り組みは、あと4、5年は継続するということです。ただし、駅周辺に張り付いたやり方だけではなくということですよ。

モデル地区というのはそもそも何のためのモデルかということですが、今日、お配りいただいた「指針」の12頁のところ、「モデル地区の実施内容」というのが模式図で示されています。「推進指針の施策の方向」が から まで、「広報・PRの展開」、「人材発掘・人材育成の取り組み」、「地域ぐるみでの学びあいの促進」、「市民参加の促進」、「施設整備の促進」、「移動円滑化ネットワーク整備」、「三者連携による展開」など、指針の方針が7方針あがっていて、それを一定地区内のモデル地区の中で、「一定地区内における重点的な普及・啓発方策の展開により、人と人とが交流する機会をつくり、福祉の価値観を共有する。」、「計画段階からの市民参加により、より効果的な施設整備、移動のネットワーク整備を実現する。」というあたりをモデル地区の中で共有しましょうということでした。何回も振り返りと反省の弁が述べられていますけれども、一つの学校の教育課程、学習プログラムになってしまっただけではいけないと、あくまでもこういった大きな目標の中でのモデルとしての取り組みということで再確認の上、あと4、5年、継続の展開をしていくということだと思っています。

周りを見ますと、さいたま市は、今、ノーマライゼーション条例の策定に着手しています。私の近いところにも委員をつとめている人がいまして、スケジュールを聞きますと平成22年度は大変な密度で、月に2回、3回と当事者を交えた市民との懇談、話し合いといった場面を作りながらノーマライゼーションについて考えていき、条例化するというプログラムが動いているということです。それから次年度にご協力いただける木崎小学校も含めまして、浦和区周辺では、市民団体が中心になって認知症サポーター事業というのを展開したりしております。今までは、障害をお持ちの方、ご高

齢の方という着眼が多かったのですが、認知症という難しい高齢期の症状に対して、地域ぐるみで支えていく仕組みを作ろうということです。これも中学校や小学校にキャラバン隊が出向いて、例えば徘徊してしまっているお年寄りに気遣いのある地域を作りましょうとか、お店やまちの中での見守る目、ネットワークを作りましょうという取り組みがあったりします。こうした様々な取り組みが全く無関係ではなく、むしろ大変大きな関わりを持って、同じ市の中で動いている時期です。モデル地区というのも、学校を通じて、実際の社会の動きとうまくつなげていくということで、学校の側にも新しい学びの視点を持っていただけるし、私たちもそこを通じて、地域を核にした、今までなかなか連携できなかった諸団体がつながるような、そういう取り組みになればと思っています。

それと、伊澤先生もご指摘されていた一つのモデル地区が終わった後のフォローということですが、いくつか私の体験をご紹介します。最初にモデル地区でお付き合いした高砂小学校、仲本小学校は当時4年生でしたので、4年生で福祉の教育をして、5年生でユニバーサルデザインの学習をした。6年生になって公共施設のあり方についての勉強をするということで、1学年上がるたびに、私が働いているコムナーレという浦和の東口にある公共施設までやって来てくれました。「今回はユニバーサルデザインの勉強に来ました。」と、「今回は公共施設というのは市民がどのように使うのかを考える勉強に来ました。」ということです。「また会いましたね。」という具合に、繰り返し会う機会がありました。私自身も楽しかったし、子どもたちにとっても、前に見たことのある人が、また違う目で教えてくれるということで、大人の社会を重層的に見る機会になったのではないかと思います。最初の高砂小学校の子どもたちはもう中学校1年生になります。中学生になると急に社会との関わり、地域との関わりが疎遠になりがちになりますので、モデル地区の次の取り組みを中学校でというのも、次の段階で考えてもおもしろいかなと思います。そういったことで、いくつかの機会を得て、様々なフォロー、様々な切り口で取り組めていけたら、私たちもだれることなく、マンネリにならずに新鮮な気持ちで取り組めると思いますし、やりがいもあるのではないかと思います。

國島 最初のご説明で、モデル地区の第1期は、浦和、北浦和、大宮という地区が対象ということでしたが、第2期についてはどうなのでしょう。あるいは、考え方としては、それ以外の地域での対応も考えていく必要があるのではないかと思います。そのところがあいまいなような聞こえがしたので、確認させてください。

事務局 今のご質問ですが、ある意味で、わざとあいまいにしているということもあります。といますのは、来年度は少し郊外にいて、住宅地型で展開させていただきます。その結果を検証してみて、再び駅近が必要であれば、駅の近くにも再び戻ってこられる。あるいは、さらに郊外やその他の地域に展開していくかもしれません。また、連携していただく団体との関係でも考えてみなければなりません。今のままですと、小学校とだけしか連携できないような枠組みになってしまっています。それを少し柔軟にして、例えば部会長もおっしゃったように中学校と連携できるとか、あるいは商店街や自治会などとも連携できるとか、対象地区だけでなく連携対象団体も少し目先を変えて発展的にできるようにしたらどうかということでございます。連携対象によっても対象地区は変動してきますし、その意味では、わざと対象をぼかしたといえるかもしれません。

三浦 よろしいですか。私のほうからも補足させてください。資料3-3の11頁を見ていただきたいのですが、この指針を作ったときに、重点事項の考え方というのが書いてあって、事務局の方で、「ある一定の地区を設定して、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を施策展開する(モデル地区型)」というところに下線が引いてあります。その前に書いてある「特定課題に集中的に施策展開する(モデル事業型)」というのも出してはいたのです。つまり、私が先ほど触れたよ

うな認知症のようなものを集中課題として設定するとか、中心市街地の高齢化の問題とか、郊外の交通不便地での移動手段の確保の問題とか、そういうテーマ設定でモデルを考えるという議論は、指針作成の当初はしていました。その中で、第1期はモデル地区型で行きましょうということになり、交通バリアフリー基本構想の3つの駅を中心にとということで進んできました。本当は一度ここでリセットして、モデル地区型の効果があったのでもう少し行きましょうとか、モデル地区型とモデル事業型をミックスしてみようとか、いっそモデル事業型に振りかえてみましょうとか、そういう議論をしたらよかったと思うのですが、逆に政策判断(「さいたま市総合振興計画・新実施計画」のこと)の方が先行してしまったのです。次の事業期間もモデル地区でやってくださいというような、判断が先行してしまったので、そこは与件として受けざるを得ないと思います。ただし、あまりこれまでやってきた手法だけにとられることなく、例えばテーマ性を絞ってみるとか、駅周辺というようなハード整備だけに目が行きがちなところから離れてみるとか、そういうことを考えたいというのが事務局の意図です。ぼやかすという煙に巻いたような表現ですが、そうではなくて、こういう意図があるということをご理解いただくとよろしいかと思います。よろしいでしょうか。

國島 はい、わかりました。

三浦 他にはご議論、ございますか。

佐々木 同じ資料3 - 3の11頁なのですが、「(資料5 参照)」と書いてありますが、これは何でしょうか。

三浦 委員の皆様には「指針」全体はお渡ししていますよね。

事務局 策定当初はお渡ししていると思いますが、今日は、ボリュームがある関係で、抜粋部分だけとさせていただきます。後日、お送りいたします。

長根 今の、第2期の件なのですが、せっかく次の木崎小学校の線が出ているわけですから、それをやっちゃって、次の年度あたりにはっきりした「指針」を作って取り組んでいったらいいのではないかという感じがしますが。

三浦 まずは木崎小学校との事業に精力を注いで、次の展開をそこから見出していくということでしょうか。

事務局 当然、来年度は木崎小学校さんとやらせていただいて、また、そこから先は方向を広げられるようなものを作っていこうというのが今回の議題です。ご理解をいただきたいと思います。

三浦 はい。河合委員、どうぞ。

河合 (第1期に)駅周辺を選んだのは、交通バリアフリー専門部会との関連性があったと思うんですね。それで、この次を考える場合、コミュニティーを基本に考えるのはどうかと思っています。例えば、頻繁に使われている公共機関を中心として地域を選ぶやり方とかですね。

三浦 はい、ありがとうございます。木崎小学校の学区内には、駅はなく、公民館が何館かあるわけです。南箇(なんが)公民館とか、領家公民館ですね。また、新しい地区取りなどにも、河合委員のご意見を参考にしたらいいと思います。事務局で覚えておいていただけたらと思います。

他にご意見、ございませんでしょうか。本日、議事の時間が迫っておりますので、その他、事務局から何かありましたらお願いいたします。

3 その他

事務局 それでは、その他として事務局から3点ほど、関連する事項を続けて報告させていただきます。

まず、1番目は、少し時期が早いのですが、福祉のまちづくり推進協議会の第3期委員の皆様のご任

期の終了について、でございます。本日お集まりの委員の皆様も第3期委員としてこの部会にも参加いただいておりますが、22年8月25日で2年の任期が終了となります。各団体から推薦していただいた委員の皆様には、可能な限り引き続いて第4期の委員もお願いするところです。もし、再任が難しい場合は、同じ団体の中から代わりの委員をご推薦いただきたくお願いいたします。正式には来年度に入りましたら、あらためてお願いいたします。一方、公募で参加された市民委員の皆様につきましては、できるだけ多くの市民の方に参加していただきたいという趣旨から、この任期でひとまず終了とさせていただきます。あらためて市の広報誌を通して公募させていただく予定です。公募の詳細は、市広報の5月号か6月号に掲載される予定です。現在の市民委員の方で、第4期もご希望していただける方は、市広報をご覧になって、ぜひあらためて応募をしていただければと思います。さて、ここで、全ての現在の委員の皆様にお間違いのないようにしていただきたいのは、任期は8月25日までですので、まだそこまでの間に行われる会議、例えば推進協議会やこの部会にはこのまま参加していただくということです。この話は、あくまで8月26日以降のことですので、誤解のないようお願いいたします。このモデル地区部会を考えると、1年度の連続した事業ですので、この8月という時期で大きな委員の変更があると、運営上の支障が予想されます。ですから、多くの方に引き続いて委員となっていただけのこと願っています。

2番目は、心のバリアフリーの啓発活動についてです。お手元にお配りしましたチラシとティッシュペーパーを作りました。昨年5月に行われた推進協議会でも、委員から障害者用駐車場の利用しづらさについてのご提言がありました。そこで、今年度は、お手元にお配りしましたように、「障害者用駐車場にとめないでください」という趣旨のチラシ2000枚、同じ図柄ポスター500枚、ティッシュペーパー3000袋、幟旗3旗を、推進協議会の高橋儀平会長のご助言も得て作成して、啓発活動を行ってきました。市内の公共施設170施設に配布したほか、市内10区27箇所のショッピングセンターなどを訪問して、ポスター等の配布と協力依頼を行いました。来年度も、障害者用駐車場だけでなく、他のテーマの宣伝物を作成して取り組めたらと考えています。

3番目は、エスコートゾーン(視覚障害者誘導用道路横断帯)とPICS(歩行者等支援情報通信システム)の設置についてです。お配りした新聞の切抜きをご覧ください。この件も、昨年5月に行われた推進協議会で長根委員や高橋儀平会長から発言があったことに関連事項ですが、この推進協議会でのやりとりを受ける形で、市の土木部と埼玉県警の交通規制課で話を進めていただいて、大宮駅東口に両者が設置されたという話です。特に、エスコートゾーンはさいたま市でははじめての設置だそうです。去る3月2日に市の土木部の主催で、長根理事長さんはじめ市視覚障害者福祉協会の方にもご参加いただいて、「渡り初め」が行われましたが、福祉総務課もお手伝いで参加させていただきました。この件につきましては、参加した長根委員さんに補足説明していただければと思いますが。

長根 PICSというのは、この杖のこのテープに信号機が反応します。地上から60センチくらいのところに巻いてあると反応する。反応すると、大宮にできたものは「ここは大宮区役所方向です。」といい、浦和のものは「県庁方向です。信号は青です。」とかいってくれます。言葉でいってくれるものですから、私たち視覚障害者にとっては、こういうものが数多くできていただければ、大助かりです。まだ、埼玉県で27箇所、全国でも630箇所くらいしかないのだそうです。ですから埼玉県はすごいなと思っています。さいたま市だけでも、浦和に4箇所。大宮に3箇所です。ですからとてもいいものができたということです。以上でございます。

市交通企画課 もう一つ、その他があります。私どもは、交通バリアフリーの関係で公共交通機関の利用

促進、バスの利用促進などの事業を行っています。皆様のお手元に西武バスさんのパンフレットをお配りしました。現在バスをご利用の方で、バス共通カード、プリペイドカードがあって、使っていらっしゃる方がいるかと思うのですが、このカードが今年の7月いっぱいまでで使えなくなるということのお知らせです。バス共通カードは3,000円とか5,000円とかありますが、発売は今月いっぱいまで、利用期間は22年7月いっぱいまでです。それ以降はそれぞれお買い求めになったバス会社で払い戻しができます。バリアフリー化の観点から、スイカとかパスモがバスでも利用できるようになりましたので、バス共通カードの必要性が薄まってきたということで、全国的にも廃止の方向になってきています。以上でございます。

三浦 その他がたくさんありまして、時間がオーバーしてしまいましたが、用意された議事等が全て終わりました。事務局にお戻します。

4 閉会

事務局 皆様、長い時間に渡りまして活発なご議論をいただき、また円滑な議事の運営にご協力いただきまして、まことにありがとうございました。以上を持ちまして、第8回福祉のまちづくりモデル地区推進部会の会議を閉会とさせていただきます。どうぞ、来年度の取り組みにつきましても、皆様のご協力を重ねてお願いいたします。

以上